



KICK OFF 通信

給食費の無償化、是か非か？

◆給食の意義とその流れ

ご案内の通り、学校給食が始まったのは明治22年10月、山形県鶴岡市大督寺にて。当時、お寺の境内に僧侶たちが小学校を作るのですが、半数以上の子ともたちがお昼ご飯をもってこられず、住民からカンパを募って握り飯を提供したことが発端です。

その当時から、子どもは地域全体の財産であり、また、子どもがいる家もない家も共有した財産である、という考え方が底流にありました。今では食育がクローズアップされ、給食の意義が重要視される中で、給食につきさらに無償化していこうという動きが各地でも散見されます。

◆学校給食の無償化の実施状況

昨年度の統計によりますと、1740ある全国の市町村で、小学校もしくは中学校において無償化を実施している自治体は82、全体の4.7%を占めます。地域別では群馬県を筆頭に沖縄、青森、奈良と続き、偏り見られます。何より

人口7万人以下の小規模な市町村のみ、実施しているのが現状です。

無償化を始めた理由に、①食育の推進・人材育成、②経済的負担の軽減、③少子化対策、④定住・転入の促進、⑤地域再生などを挙げております。そしてその成果と言うと、安心して子育てできる環境を享受してもらえ、かつ給食費納入に関する手間や負担の解消に繋がったと、概ね好評である感じですね。

◆立ち足る財政の壁

ところで、今までも多くの地方議会で給食費の無償化が論じられました。反対意見として多数を占めるは、低所得世帯に対しては既に生活保護や手当を通じて、給食費を含めた就学費用の無料措置が取られているというもの。裕福な家庭までに無償化することは、行き過ぎだとした論点です。

また無償化した場合に、①継続的な予算確保が困難、②食材費高騰や転入者への対応に混乱が生じる、③無償化が当然という意

識が高まるなど、自治体の抱える課題はさらに広がっていきます。

◆給食と無償化は切り離して

何より子どもの成長・発達段階において、学校給食は不可欠な存在で、益々その重要性が高まっていると言っても過言ではありません。しかし、一方で無償化する理由として、少子化対策とか過疎化対策とか、給食の意義とは別次元で取り扱われているケースが多いのも事実です。例えば、第2、3子以上は無料にする、というように、今後一部無料化の流れが増してくるのではないのでしょうか。

ところで横浜市は、中学校弁当につき、低所得世帯に対する無償化の方針を打ち出しました。これはまさに「木を見て森を見ず」の何物でもなく、子ども本位からの政策には、ほど遠いものと断ぜざるを得ませんね。

何のため誰のための給食なのでしょう...。鶴岡から始まった原点に立ち返り今一度、地域が一体となって子どもを育てる意識を醸成していかなければならないと思います。



水み
と
みち
つ

【プロフィール】

昭和37年 7月28日 北海道生まれ 藤沢育ち
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に・・・

平成 4年 「税は国家なり」との思いで始めた税理士試験に合格
平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
総務委員会 & 沖縄・北方領土特別委員会 両理事
国土交通委員会ならびに厚生労働委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長

平成29年 第48回 衆議員選挙出馬せず下野する
平成30年 一般社団法人 人づくり・国創り研究会を設立

前衆議院議員 / 元参議院議員